

事業実績 アートで解決する交流拠点プロジェクト

本事業は、建築家やアーティストといった専門家のアドバイスをもらいながら、人が入りやすくゆったりと過ごせる場として「ART LAB MARKET」のリニューアルを行った。そこでは、行政職員と街づくりに関する「御用聞き」を行うだけでなく、市民が気軽に創作活動に取り組んだり、様々なワークショップや館内外での協働プロジェクトに参加し、普段使いできる場として育てることで、「楽しいと思える」心の動きを追求した。

1. 熊本市現代美術館を地域の課題を共有し、解決する場に育てる活動

(1) 「ART LAB MARKET」視察・指導及び見学会等

- ① 視察、導線等の指導、意見交換
- ② 設計者の案内による関係者見学会、インタビュー

リニューアルに関し建築家の西澤徹夫氏による視察、導線指導、意見交換を行った。

2022年10月12日（水）にリニューアルオープンしたアトラボマーケット及びホームギャラリーの関係者見学会を、西澤氏を講師として、地元の建築家や県の建築担当者などを招いて行い、併せてインタビュー等を行った。

(2) 「ART LAB MARKET」広報 Web ページの作成

- ① 熊本市現代美術館ホームページへのページ構築・発信

熊本市現代美術館ホームページ内に、新たにアトラボマーケットのページを構築した。同スペース内で行われるワークショップやイベント情報を随時更新し SNS 等で発信している。<https://www.camk.jp/region/alm/>

(3) リニューアル見学会・意見交換会

- ① 館長・設計者による見学会、意見交換会、オープニングイベント

10月12日の見学会後、オープニングイベントの一つとして、日比野克彦館長によるアトラボマーケットでの公開制作を行った。

(4) 「ART LAB MARKET」活用方法の提案と発信

① 「ART LAB MARKET」等で行うアートコミュニケーション事業リーフレット
アートコミュニケーション事業を紹介する A4 二つ折りのリーフレットを作成し、スペース内に設置したほか、広報活動などで利用している。

(5) 「ART LAB MARKET」等で行うワークショップや御用聞き

- ① ワークショップ会場用看板の作成

日比野館長デザインのワークショップ会場に掲出する看板を作成した。

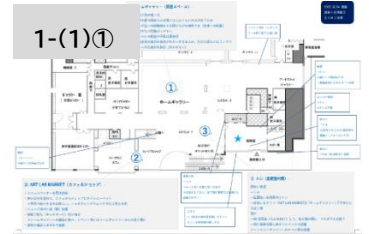
- ② ワークショップ公開制作用備品の購入

ワークショップ会場等で使用する備品を購入した。

- ③ 小冊子「熊本市現代美術館の館長が市役所に

御用聴きに行く理由」の作成（アンケート実施）

「御用聞き」とは何かとまとめた小冊子（A5/16p）を制作し無料配布。内容の記録と参加した市職員へのアンケート日比野館長インタビューを掲載した。



視察後の内容のまとめ



西澤氏による見学会



日比野克彦館長による公開制作



事業紹介リーフレット



ワークショップ会場用看板



左：「御用聞き」の様子、右：参加者へのアンケート



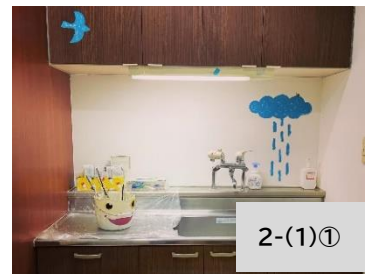
1-1(5)③

2. 地域の課題を、市民や団体とともにアートで解決する活動

(1) 赤ちゃんの居場所を居心地よくするプロジェクト

①授乳室公開ペインティング

熊本在住のイラストレーター・コーダヨーコ氏を招聘アーティストとして、老朽化した授乳室の壁面を塗り替え、新たに壁画を制作する公開ペインティングを実施した。



授乳室へのペインティング（公開制作中の様子）

(2) アート思考の体験ワークショップ

①ワークショップ「和紙でキャストイングをしてみよう」

（動画を見て自分でやってみるWS）

開催した「かみと現代美術」展出品作家のウチダリナ氏を講師に迎え、和紙で色々なものをキャストイング（型取り）するワークショップを行った。アトラボマーケットに動画とキットを用意し、気軽に体験できるプログラムとして実施した。



和紙でキャストイングしたオブジェ

②ワークショップ「さしがさばなワークショップ」

（アーティストと一緒にやる無料WS）

開催した「かみと現代美術」展出品作家の半谷学氏を講師に迎え、熊本県産の畳の製造工程で出る「い草」の端材を原料にしたランプシェードを制作。不要なもの、捨てられてしまうものを世界に一つだけの作品に変身させた。



制作したランプシェード

(3) 心の国際交流アートプロジェクト

①「MATCH FLAG PROJECT」（熊本駅前、辛島公園、下通アーケードで開催後、美術館で1か月継続）

サッカー日本代表とその対戦国の両方の国旗をデザインした旗を作成し、アートとスポーツを通じて互いにリスペクトする「MATCH FLAG PROJECT」のワークショップを10月10日に開催、その後、美術館内及び不知火美術館、天草でも継続開催し、完成品をドーハに送りワールドカップ会場や、美術館内、熊本の街なかで掲示を行った。

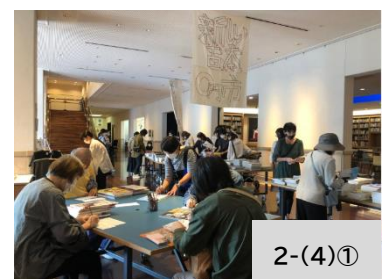


マッチフラッグの様子 撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

(4) 他団体、多分野との連携事業

①ブックフェスティバル「本熊本」の共催

熊本ブックフェスティバル「BON KUMA HON 2022 VOL.8 リハビリ編」（主催：ぼんくま実行委員会）のイベントの一つとして「新しい古本0円市」を館内で開催。は、熊本市現代美術館ホームギャラリーで開架してきた雑誌の一部を0円（無料）で売るイベントで、参加者に「文字の等価交換」として、「面白いこと」を1冊につき1つ書いてもらう試みを行った。



「新しい古本0円市」の様子